

アルマール錠はアマリール錠の誤りである可能性。

<5> 患者の疾患と薬剤との乖離から適応外使用が疑われる処方

【処方例】

<処方1> 平成 15 年 3 月 14 日

.....
オパルモン 錠 (5 μ g) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用
メキシチールカプセル (100 mg) 3 カプセル 1 日 3 回 毎食後服用
フォサマック錠 (5mg) 1 錠 1 日 1 回 起床時服用
.....

<処方2> 平成 15 年 3 月 28 日

.....
オパルモン 錠 (5 μ g) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用
タンボコール錠 (100 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後毎食後服用
フォサマック錠 (5mg) 1 錠 1 日 1 回 起床時毎食後服用
.....

『今回、処方1から処方2へと変更になった。患者インタビューにより、神経障害に伴う自覚症状（自発痛、しびれ感）が発現していることがわかっている。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者の疾患と処方薬の効能・効果の不一致から適応外使用を見出す。

【処方例のチェック結果】

タンボコール錠は神経障害に伴う自覚症状の改善（適応外使用）を目的として処方されている可能性。

<6> 同一薬効群ではあるが、適応がない薬剤の処方

【処方例】

67 歳の男性

<処方1>

.....
ロンゲス錠 (5 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝食後服用 14 日分
.....

『患者は糖尿病であり、血糖管理や食事療法などを行っているという。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者の病名と処方薬の効能・効果の不一致から適応のある別の同一薬効群薬剤の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ロンゲス錠は糖尿病性腎症の適応があるタナトリル錠の誤りである可能性。

<7>処方頻度の極めて低い薬剤の処方

【処方例】

56歳の男性

<処方1>

ミノマイシン (100) 1錠 1日2回 夕食後服用 7日分
インフリー 2カプセル 1日2回 朝夕食後服用 7日分
ラボナ 3錠 1日3回 毎食後服用 7日分

『患者は、近医の皮膚科を初診で受診し、当薬局へ来局した。投薬時に薬剤師が、「今回は鎮静剤が出ています」と言ったところ、患者は、医師からはそのような説明は受けていないと言った。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者のかかっている診療科における処方薬の処方頻度は極めて低いことから、別の薬剤の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ラボナ錠はアドナ錠の誤りである可能性。

<8>診療科や医師の専門領域にそぐわない薬剤の処方

【処方例】

40歳の女性

<処方1>

フロモックス錠 (100 mg) 3錠 1日3回 毎食後服用 5日分
ノイエルカプセル (200 mg) 3錠 1日3回 毎食後服用 5日分
ロキソニン錠 (60 mg) 3錠 1日3回 毎食後服用 5日分

<処方2>

シナール顆粒 (200 mg/g) 3g(製剤量) 1日3回 毎食後服用 14日分
トラベルミン錠 3錠 1日3回 毎食後服用 14日分

『患者はある病院の形成外科にかかった。顔面の一部切開手術後のためにまず処方1が投与され、その5日後に処方2が処方されたという。患者に対して処方医からトラベルミンについて説明があったかどうか、眩暈などがあるかどうか聞いたが、どちらもないとのことであった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は患者のかかっている診療科や処方医の専門領域にそぐわない薬剤であることから、別の薬剤の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

トラベルミン錠はトランサミン錠の誤りである可能性。

<9>他剤と薬剤との併用が規定されている薬剤の単独処方

【処方例】

81 歳の女性

<処方1>

.....
バイアスピリン錠 1錠 1日1回 朝食後服用 7日分
セルシン錠 (2mg) 3錠 1日3回 毎食後服用 7日分
マイスタン錠 (10mg) 1錠 1日1回 就寝前服用 7日分
.....

『患者へのインタビューから、患者は不眠を訴えていたことが明らかとなった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

他の薬剤と併用して使用される薬剤が単独で処方されていることから、別の薬剤の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

マイスタン錠はマイスリー錠の誤りである可能性。

<10> 使用にあたり必要な検査が実施されていないことが明確となった処方

【処方例】

55 歳の男性

<処方1>

.....
ジプレキサ錠 (10mg) 1錠 1日1回 朝食後服用
.....

『本剤を服用して既に1カ年近くになる。患者インタビューで明らかとなったことであるが、最初の頃は血液検査をしていたが、最近は血液検査など一切行っていないということであった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬を使用する場合に必要な検査が実施されていないことから、処方確認の必要性を見出す。

【処方例のチェック結果】

医師は、血糖値測定のための血液検査を行うことを忘れている可能性。

<11> 十分な治療効果が得られないとの患者の訴えから不相当と考えられる処方

【処方例】

44 歳の女性

<処方1>

.....
ドグマチール錠 (50mg) 3錠 1日3回 毎食後服用 14日分
.....

コンスタン錠 (0.4 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
ルボックス錠 (25 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
ガスモチン錠 (5 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食前服用 14 日分
プルゼニド錠 (12 mg) 2 錠 1 日 1 回 就寝前服用 14 日分

『うつ病治療のために通院しており、また便秘に対して以前から処方1のようにプルゼニドが処方されていた。今回、患者インタビューにより、最近ではほとんど便秘の改善が見られていないことがわかった。診察時には精神状態のチェックがほとんどで、便秘のことまで話がいたっていない。処方にはいつもセットとしてプルゼニドが処方されていたが、あまり飲まないで自宅に余っているとの話であった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬による十分な治療効果が得られていないことから不適切な処方を見出す。

【処方例のチェック結果】

プルゼニド錠は効果がない可能性。

< 1 2 > 効能・効果の条件に一致しない薬剤の処方

【処方例】

40 歳の女性 (体重 65 kg、身長 1 m 50 cm)

< 処方 1 >

メバロチン錠 (5 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
サノレックス錠 (0.5 mg) 1 錠 1 日 1 回 昼食前服用 14 日分

『患者自身は自分自身は太っていると考えている。肥満治療薬があると聞いてかかりつけの医師に相談したところ < 処方 1 > の薬剤が出された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者が効能・効果の条件に一致しないことから不適切な処方を見出す。

【処方例のチェック結果】

患者は体重からサノレックス錠の処方対象ではない可能性。

< 1 3 > 削除された効能効果に基づく処方

【処方例】

85 歳の女性

< 処方 1 > (4 月 2 日)

ノルバスク錠 (5 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 7 日分
マーズレン S 1.5 g 1 日 3 回 毎食後服用 7 日分
ウルソサン錠 (50 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 7 日分

.....
<処方 2> (4 月 6 日)
.....

セロクラール錠 (10 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 7 日分
.....

<処方 3> (4 月 10 日)
.....

ノルバスク錠 (5 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 7 日分
マーズレン S 1.5 g 1 日 3 回 毎食後服用 7 日分
ウルソサン錠 (50 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 7 日分
コメリアンコーワ錠 (50 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 7 日分
.....

『患者は<処方 1>を定期的に服用していたが、4 月 6 日にふらつき（脳血管障害の後遺症と思われる）を感じたため受診し、その結果、<処方 2>のセロクラール錠が追加された。さらに 4 月 10 日に受診した際、<処方 1>にコメリアンコーワ錠が追加になっていた。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者の疾患と処方薬の効能・効果の不一致から削除された効能・効果を目的とした不適切な処方を見出す。

【処方例のチェック結果】

コメリアンコーワ錠は脳循環改善薬として処方されている可能性。

<1 4> 一般的には女性（男性）に処方される医薬品の男性（女性）への処方

【処方例】

37 歳の男性

<処方 1> 手書き処方
.....

プロプレス錠 (4 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
ノルバデックス 2 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
.....

『初めて来局した患者であるが、インタビューにおいてもほとんどしゃべらなかった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は一般的には女性（男性）に処方されることから、別の薬剤の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ノルバデックスはノルバスクの誤りである可能性。

4. <用法及び用量>

<1> 薬剤の服用時期に疑問がある処方

【処方例】

65 歳の男性

<処方1>

メネシット錠 (100 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
エフピー錠 (2.5 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分

『本患者において、エフピーによる治療は維持療法に移っている。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬の服用時期が用法と一致しないことから、用法の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

エフピー錠の用法は朝昼食後の誤りである可能性。

<2> 散剤の分量が主薬量(成分量)か製剤量かの判断が困難な処方

【処方例】

68 歳の女性

<処方1> 手書き処方せん

Ｌ-ケフレックス顆粒 2g 1 日 2 回 朝・夕食後服用 4 日分
カロナール細粒 1.5g 1 日 3 回 毎食後服用 4 日分

『患者は、風邪と診断され、診療所で診察を受けた帰り道に上記の処方箋を持って来局した。患者は、「同じ薬に錠剤やカプセル剤があるそうですが、私、薬の飲み方が悪くて、いつも食道につまったようになるので今回は粉薬にしてもらいました。」と言った。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方されている散剤の分量が成分量か製剤量かの判断が困難なことから、用量の疑義照会の必要性を見出す。

【処方例のチェック結果】

Ｌ-ケフレックス顆粒 2g は製剤量、カロナール細粒 1.5g は成分量である可能性。

<3> 頓服に関する指示に疑問がある処方

【処方例】

52 歳の男性

<処方1>

.....
ボルタレン SR カプセル (37.5 mg) 1 回 1 カプセル 腰痛時 頓服 5 回分
.....

『患者は腰痛症であり、痛いときに頓用で服用するように指示されていた。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬が頓服に不適、頓服処方用法（服用時期、服用に際しての注意事項）・用量の記載不備、処方薬の用法・用量と患者の症状に対する用法・用量との不一致から、疑義照会の必要性を見出す。

【処方例のチェック結果】

ボルタレン SR カプセルはボルタレン錠の誤りである可能性。

<4> 薬剤の制限量を越えた処方

【処方例】

33 歳の女性

<処方1>

.....
ロキソニン錠 (60 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分

リドーラ錠 (3 mg) 4 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
.....

『患者は、慢性関節リウマチに対し、ロキソニンによる治療を受けていたが、十分な効果が得られないことから今回リドーラが追加された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は制限量を超過していることから用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

リドーラ錠の 1 日量は過量投与である可能性。

<5> 病名によって薬剤の投与量が異なることが考慮されていない処方

【処方例】

50 歳の女性

<処方1>

.....
マイスリー錠 (10 mg) 1 錠 1 日 1 回 就寝前服用 7 日分

ハイゼット錠 (50 mg) 6 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
.....

『患者インタビューにおいて更年期障害で病院にかかったことがわかった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者の病名と処方薬の用量の不一致から投与量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ハイゼット錠の投与量は更年期障害に対しては多すぎる可能性。

<6> 規定された投与期間の制限を超えた処方

【処方例】

33 歳の女性

<処方1>

.....
アルサルミン錠 (250 mg) 12 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
クロミッド錠 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
.....

『患者は、結婚してから 5 年になるが子供ができず、今回から排卵誘発剤の使用が開始された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方日数が投与期間の制限を超えていることから投与日数の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

クロミッド錠の処方日数は 5 日分の誤りである可能性。

<7> 小児の年齢、体重に対して適正な用法・用量になっていない処方

【処方例】

12 歳の男児 (体重 35 kg)

<処方1>

.....
セフゾン細粒小児用 (10%) 3 g (製剤量) 1 日 3 回 毎食後服用 2 日分
ポントールシロップ 1 回 21 ml 頓服 (発熱時) 2 回分
.....

『患者は風邪をひき、熱と痛みがある。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬の用法・用量が小児の年齢、体重に対して適正でないことから、用法・用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ポントールシロップの 1 回量は通常量の約 3 倍で、処方間違いである可能性。

<8> 特殊な (不規則な) 用法・用量 (期間限定の漸増) が守られていない処方

【処方例】

92 歳の男性

<処方1> (前回の処方; 初回)

.....
アリセプト錠 (3 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分

<処方2> 今回の処方 (2 回目)

.....
アリセプト錠 (3 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分

.....
『患者はアルツハイマー型痴呆症であると診断されている。前回からアリセプトによる治療が開始されていた。今回は 2 回目の診察であった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬の特殊な用法・用量が守られていないことから用法・用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

アリセプト錠 (3 mg) はアリセプト錠 (5 mg) の誤りである可能性。

<9> 特殊な (不規則な) 用法用量 (期間限定の休薬期間) が守られていない処方

【処方例】

65 歳の女性

<処方1>

.....
ラストット S カプセル (50 m) 1 カプセル 1 日 1 回 朝食後服用 35 日分

セルベックスカプセル (50 m) 3 カプセル 1 日 3 回 毎食後服用 35 日分

ムコソルバン錠 (15 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 35 日分

ロキソニン錠 (60 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 35 日分

レバタン坐剤 (0.2 mg) 1 回 1 個 全 28 個 疼痛が酷い時に 1 個、その後必要に応じて、8 ~ 12 時間毎に肛門内挿入

.....
『患者は子宮頸癌のため入退院を繰り返しているが、病院の診察を受けた帰り道に薬局に立ち寄った。その時、患者は「1 ヶ月ほど東京の息子の家へお邪魔することにしたんです。ですので 1 ヶ月分の薬を出してもらったんです。」と言った。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は休薬期間が必要なことから投与日数の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ラストット S カプセルの休薬期間が設定されておらず、処方日数は誤りである可能性。

<10> 過量投与、あるいは過少投与からミスが疑われる別物処方

【処方例】

60 歳の女性

<処方1>

レニベース錠 (5mg) 2 錠 1 日 1 回 朝食後服用 28 日分
ヘルベッサ錠 (30mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 28 日分
エラスチーム錠 (1800 単位) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 28 日分

<処方2>

セフゾン (100) 3 カプセル 1 日 3 回 毎食後服用 5 日分
PL-顆粒 3g 1 日 3 回 毎食後服用 5 日分
メブチン 6 錠 1 日 3 回 毎食後服用 5 日分
ムコダイン (500) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 5 日分
イソジンガーグル (30ml) 全1本 うがい

『処方1のような内容で数ヶ月にわたって継続治療が行われていた。心臓の検査のために一時入院したこともある。ある時、風邪のため<処方2>が追加された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬の用量が通常用量に比して過量あるいは過少であることから、別の薬剤の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

メブチンはメジコンの誤りである可能性。

<11> 高齢者に適正な用法・用量になっていない処方

【処方例】

70 歳の女性
<処方1> 体重 35 kg

ハルシオン錠 (0.25mg) 1 錠 就寝前服用 7 日分

『夜眠れないということで近くの内科医院からハルシオンが処方された。以前にも別の病院でハルシオンを処方されたことがあるが、淡紫色で割線はなかったという。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方が高齢者に適正な用法・用量となっていないことから用法・用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ハルシオン錠 (0.25mg) はハルシオン錠 (0.125mg) の誤りである可能性。

<12> 腎機能障害が疑われた患者に用法・用量の調節が考慮されていない処方

【処方例】

73 歳の男性 (体重 60 kg)

<処方1>

カリメート 20 g 1 日 2 回 朝・夕食後服用 14 日分
ガスター D 錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝・夕食後服用 14 日分

『人間ドックの胃透視検査で異常が見つかった。病院で再検査結果の報告を受けて薬が処方された。患者の血清クレアチニン値 (Scr) は 2.0 mg/dl であった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

腎機能障害が疑われる患者に処方薬の用法・用量の調節が考慮されていないことから、用法・用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

ガスター D 錠の用法・用量は誤りである可能性。

<13> 肝機能障害が疑われた患者に用法・用量の調節が考慮されていない処方

【処方例】

60 歳の男性

<処方1>

コレパイン顆粒 (2.14g) 2 包 1 日 2 回 朝夕食前服用 14 日分
リバンチルカプセル (150 mg) 2 カプセル 1 日 1 回 夕食後服用 14 日分

『高脂血症である患者に初めて処方1の薬剤が出された。患者には、以前から肝機能障害があるということが、人間ドックでも明らかになっていたという。患者は、「このことは医師も知っているはずだ。」と述べている。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

肝機能障害が疑われる患者に処方薬の用法・用量の調節が考慮されていないことから、用法・用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

リバンチルの 1 日投与量 300 mg /日は 100 mg /日の誤りである可能性。

<14> 服薬時期が多く、コンプライアンスの低下が危惧される処方

【処方例】

50 歳の男性

<処方1>

ベトリロール L カプセル (20 mg) 1 カプセル 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
アダラート L 錠 (10 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
ムコソルバン錠 (15 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分

『患者は会社員であり、高血圧で慢性気管支炎で上記の薬剤を服用している。しかし、これまで、飲み忘れが多く、飲み過ぎがあったり服薬コンプライアンスは良好ではない。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者の服薬コンプライアンス不良の要因として、それぞれの処方薬の服薬回数が異なっていることも考えられることから、服薬回数をそろえる必要性を見出す。

【処方例のチェック結果】

服薬回数を 1 日 1 回にそろえることで服薬コンプライアンスが向上する可能性。

< 15 > 飲み忘れた、あるいは飲み過ぎた場合の用法・用量調整

【処方例】

55 歳の男性

< 処方 1 >

セフゾンカプセル (100 mg) 3 カプセル 1 日 3 回 毎食後服用 4 日分
ロキソニン錠 (60 mg) 1 回 1 錠 高熱時頓用 (1 日 2 回まで) 5 回分

『患者は夜間から早朝にかけて高熱が出たため朝 5 時頃、救急病院にかかった。感冒と考えられたため処方 1 の薬剤が出された。薬は病院の前にある 24 時間開局している薬局でもらった。自宅に帰って、朝 8 時 30 分頃、処方薬を服用した。ロキソニンは 1 錠服用したが、セフゾンは間違っって 3 カプセルを一度にまとめて服用してしまった。患者は直ぐに気が付いて薬局に電話をかけてきた。薬袋には「1 日 3 回 3 日分」ということで「3」の数字が並んでいるために混乱して 1 回量を 3 カプセルと勘違いしてしまったと思われる。また夜あまり眠れていない状態が続いていたために、服用薬剤数を混乱したものと思われる。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬を飲み忘れた、あるいは飲み過ぎた場合の血液中濃度推移のシミュレーションから、次回の服用方法を見出す。

【処方例のチェック結果】

セフゾンカプセルを間違っって 3 カプセルまとめ飲みしたときの、血液中濃度推移のシミュレーションから昼食後服用分は 1 回スキップして夕食後から服用すればよい可能性。

< 16 > 連用されていた薬剤が突然中止となっていた処方

【処方例】

52 歳の女性

< 処方 1 > (10 月 5 日)

インデラル錠 (10 mg) 6 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
メルカゾール錠 (5 mg) 6 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
アルサルミン錠 (250 mg) 12 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分

.....
<処方2> (10月19日)
.....

メルカゾール錠 (5 mg) 3錠 1日3回 毎食後服用 14日分
アルサルミン錠 (250 mg) 12錠 1日3回 毎食後服用 14日分
.....

『数ヶ月前から、甲状腺機能亢進症のため処方1のようにインデラルとメルカゾールが使用されていたが、今回来局した時には、処方2のようにインデラルは突然に中止となっていた。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬が突然中止されていることから離脱症状が発現する危険性を見出す。

【処方例のチェック結果】

インデラル錠の突然の中止によって離脱症状が発現する可能性。

<17> 他の薬剤への切り替え方法に問題がある処方

【処方例】

45歳の女性

<処方1> (5月15日)
.....

トフラニール錠 (25 mg) 4錠 1日2回 朝夕食後服用 14日分
アモバン錠 (7.5 mg) 1錠 1日1回 就寝前服用 14日分
.....

<処方2> (5月29日)
.....

パキシル錠 (20 mg) 1錠 1日1回 夕食後服用 14日分
アモバン錠 (7.5 mg) 1錠 1日1回 就寝前服用 14日分
.....

『患者はこれまで数ヶ月にわたって処方1の薬を服用していたが、トフラニール (イミプラミン) の副作用 (口渇、便秘、眼のかすみ、傾眠など) が強く、今回から処方2に示すように SSRI のパキシル (パロキセチン) へ変更となった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬を急に別の薬剤に切り替えたことによって問題が発現する危険性を見出す。

【処方例のチェック結果】

トフラニールの投与を急に中止することによって離脱症状が発現する可能性。

<18> 同じ主薬であるが製剤の変更に問題があると考えられる処方

【処方例】

63歳の男性

<処方1>

パナルジン錠 (100 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分
デパケン錠 (200 mg) 4 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分
ガスター D 錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分
ワーファリン錠 (1 mg) 5 錠 1 日 1 回 朝食後服用 7 日分
コバシル錠 (4 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 7 日分

<処方2>

パナルジン錠 (100 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分
デパケン R 錠 (100 mg) 8 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分
ガスター D 錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分
ワーファリン錠 (1 mg) 5 錠 1 日 1 回 朝食後服用 7 日分
コバシル錠 (4 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 7 日分
朝服用分と夕服用分で一包化をお願いします。

『患者は上記の処方1で数ヶ月間にわたって既に服用していた（患者は散剤・細粒剤などは飲みにくくて嫌なので錠剤を希望している）。患者へのインタビューから、服薬コンプライアンスが悪いことが明らかとなった。1日服薬回数の違い（1日1回と1日2回）から薬剤によって飲み忘れや飲み過ぎが起こることがある。例えば、1日1回の薬を1日2回飲んだり、1日2回の薬を1日1回しか飲まなかったりする。本患者においては、朝食後服用分と夕食後服用分の一包化調剤が望まれ、今回、処方2のようにデパケン錠から一包化可能なデパケン R 錠へと変更となった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬が同一成分含有の剤形の異なる製剤に変更されたことによる血中濃度推移の変動を予測して用法・用量の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

同一用法におけるデパケン錠 (200 mg) 4 錠からデパケン R 錠 (100 mg) 8 錠への変更は血中濃度推移が変動する可能性。

<19> 病名によって薬剤の投与回数が違うことが認識されていない処方

【処方例】

65 歳の女性

<処方1>

バルトレックス錠 (500 mg) 4 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 7 日分

『患者は、診察で中等度の帯状疱疹であると言われたという。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

患者の病名と処方薬の服用回数の不一致から用法の処方間違いを見出す。

【処方例のチェック結果】

バルトレックス錠は1日3回服用の誤りである可能性。

5. 禁忌・慎重投与（薬剤に不適切な疾患）

<1> 呼吸器系疾患患者、喘息患者に禁忌・注意薬剤の処方

【処方例】

49 歳の男性

<処方1> A 病院

.....
ユニフィル錠 (200 mg) 1 錠 1 日 1 回 夕食後服用 14 日分
アダラート L 錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
サルタノールインヘラー 全 2 本 1 回 2 吸入 1 日 4 回
ベコタイド 100 インヘラー 全 2 本 1 回 1 吸入 1 日 4 回 口腔内に噴霧吸入
.....

<処方2> B 眼科医院、手書き

.....
チモプトール点眼液 (0.5% 5 mL) 全 2 本 1 日 2 回 朝夕 1 回 1 滴 右目
.....

『A 病院において、数年間、高血圧及び気管支喘息のためにさまざまな薬剤が処方されていた（処方1）。患者はこれらを規則正しく服用・使用していた。ある時、人間ドックにおいて、眼圧が高いことが指摘された。そこで近くの B 眼科医院を受信したところ、処方2のように緑内障と診断され、チモプトール点眼液が処方されることとなった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は呼吸器系疾患患者に禁忌、慎重投与であることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

チモプトール点眼液の処方は禁忌である可能性。

<2> 手術前の休薬期間が不十分な処方

【処方例】

44 歳の男性

<処方1> (前回：2月23日)

.....
バファリン 81 mg 錠 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
パナルジン錠 (100 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
.....

<処方2> (今回：3月9日)

.....
デパス錠 (1 mg) 1 錠 1 日 1 回 就寝前服用 1 日分 3月11日に服用
.....

『今回（3月9日）、患者への服薬指導の中で、3月12日にポリープの手術をするために、抗血小板薬の投与が中止され、術前の睡眠を確保するためにデパスが処方されたことが明らかとなった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は手術前に休薬する必要があることから、休薬期間が不十分な処方を見出す。

【処方例のチェック結果】

バファリン 81 mg 錠とパナルジン錠の手術前の休薬期間が不十分である可能性、手術時期の延期を提案。

<3> 心血管系疾患のある患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

62 歳の男性

<処方1> 内科

スバラ錠 (100 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 3 日分
チアトンカプセル (10 mg) 1 回 1 錠 頓用 腹痛時 5 回分

<処方2> 循環器センターでの定期処方

ワーファリン錠 (1 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 4 日分
アスペノンカプセル (20 mg) 1 カプセル 1 日 1 回 朝食後服用 4 日分
リスモダン R 錠 (150 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 4 日分
ロブレスール錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 4 日分
プロブレス錠 (4 mg) 1 錠 1 日 1 回 非透析日の朝食後服用 4 日分
ジゴシン錠 (0.25 mg) 0.5 錠 1 日 1 回 夕食後服用 4 日分

『患者は、病院の循環器センターで不整脈治療の目的で処方2に示すようにリスモダン R が処方されている。ある時、同じ病院の内科において、胃癒攣などのために処方1が出された。内科医は患者が循環器センターにかかっていることを認識していなかった。もちろん、循環器センターで出されている医薬品についても知らなかった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は心血管系疾患のある患者に禁忌、慎重投与であることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

患者は不整脈（慎重投与）で、リスモダン R 錠を服用していることからスバラ錠の処方は併用禁忌である。

<4> てんかんあるいはけいれんのある患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

57 歳の男性

<処方1> 3 月 26 日（脳神経外科より）

エクセグラン錠 (100 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後 60 日分
アモバン錠 (10 mg) 1 回 1 錠 不眠時頓用 30 回分

<処方2> 3 月 27 日（呼吸器科より）

テオドール錠 (100 mg) 4 錠 1 日 2 回 朝夕食後 30 日分
ムコソルバン錠 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後 30 日分

テルシガンエロゾル 全 2 瓶 1 回 1 ～ 2 吸入 1 日 3 回
サルタノールインヘラー 全 1 瓶 1 回 1 ～ 2 吸入 発作時 1 日 4 回 計 8 吸入まで
PL 顆粒 3g 1 日 3 回 毎食後 5 日分
ロキソニン錠 3 錠 1 日 3 回 毎食後 5 日分
バクシダール錠 3 錠 1 日 3 回 毎食後 5 日分

『病院脳神経外科より処方 1 が出された。翌日、患者は同病院の呼吸器科より喘息の薬剤と感冒のための薬剤 (処方 2) が出された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬はてんかんあるいはけいれんのある患者に禁忌、慎重投与であることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

バクシダール錠は不適切である可能性。

<5> 肝障害患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

60 歳の男性

<処方 1> (内科医院)

ザイロリック錠 (100 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
ユリノーム錠 (25 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分

『ザイロリックだけでは血清尿酸値を治療目的まで低下させることができなかったので尿酸排泄促進剤のユリノームが追加処方された。患者に対して服薬指導を行う中、血液検査などを行っているかどうかを聞いたところ、当内科医院では行っていないが、別の大学病院では行ったことがあるという。最近の結果では、肝機能に異常がみられていたということであった。その事を今回の処方医には報告していないという。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は肝機能障害患者に禁忌または慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

ユリノーム錠は不適切である可能性。

<6> 腎障害患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

86 歳の女性

<処方 1>

1) コニール錠 (2 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分
コバシル錠 (2 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分

- 2) ユリノーム錠 (25 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
ミオナール錠 (50 mg) 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
マーズレンS 顆粒 2g 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
ラックビー微粒 (1g/包) 3 包 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
3) カリメート末 15g 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分
 水に懸濁させて服用すること
4) エクセラゼカプセル 3 カプセル 1 日 3 回 毎食直後服用 14 日分
5) ワンアルファ錠 (0.25 μg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分
6) リポバス錠 (5 mg) 1 錠 1 日 1 回 夕食後服用 14 日分

『患者にインタビューしたが、何も答えてくれなかった。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は腎機能障害患者に禁忌または慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

ユリノーム錠は不適切である可能性。

<7> 前立腺肥大患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

61 歳の男性

<処方1> (内科診療所)

ハルナールカプセル (0.2 mg) 1 カプセル 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分

<処方2> (病院の心療内科)

トレドミン錠 (2 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分

『患者は、1 年ほど前から内科診療所で前立腺肥大症に伴う排尿障害の治療のために処方1の薬剤が出されている。今回、病院の心療内科でうつ状態の治療のために処方2の薬剤が出された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は前立腺肥大のある患者に禁忌、慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

トレドミン錠は禁忌である可能性。

<8> 消化性潰瘍患者に禁忌または慎重投与となっている処方

【処方例】

68 歳の女性

<処方1> (内科専門病院より)

ガスター錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後 14 日分

<処方2> (整形外科専門病院より)

ハイペン錠 (200 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後 14 日分

『患者は以前から胃潰瘍であり、治癒と再発を繰り返し、これまで、定期的に処方1が出されていた。今回、腰痛のため整形外科専門病院を受診したところ、処方2が出された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は消化性潰瘍のある患者に禁忌、慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

ハイペン錠は禁忌である可能性。

<9> 胆石患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方とエピソード】

50 歳の男性

<処方1>

ガスター-D 錠 (20 mg) 2 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 14 日分

ウルソ 100 6 錠 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分

デリバ 3 カプセル 1 日 3 回 毎食後服用 14 日分

『患者は、近隣の内科クリニックで胃潰瘍と胆石症の治療を続けている。今回から高脂血症の治療薬、デリバが処方された。』

【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は胆石のある患者に禁忌、慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

デリバは禁忌である可能性。

<10> 糖尿病患者に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

64 歳の男性

<処方1> 病院の内分泌内科

オイグルコン錠 (2.5 mg) 1 錠 1 日 1 回 朝食後服用 14 日分

.....
<処方2> 近医の開業医 (内科)

.....
ガチフロ錠 (100 mg) 4 錠 1 日 2 回 朝夕食後服用 4 日分

PL 顆粒 4g 1 日 4 回 毎食後・就寝前服用 4 日分

ムコソルバン錠 3 錠 1 日 3 回 毎食後服用 4 日分

.....
『病院での処方1の薬剤を服用している。今回、扁桃腺の炎症がひどく、近医を受診した。』

.....
【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は糖尿病のある患者に禁忌、慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

ガチフロ錠は禁忌である。

<11> 耳鼻科疾患に禁忌または慎重投与となっている薬剤の処方

【処方例】

60 歳の女性

<処方1>

.....
眼・耳科用リンデロン A 液 1 日 3 回 右耳に点耳 3 本

.....
『患者は、右の耳に熱感と痛みを覚え近隣の耳鼻科を受診した。帰り道薬局を訪れ次のように話しました。「中耳炎だと先生は言っていました。1 週間したら診察に来るようにと指示されましたが、1 ヶ月ほど郷里に帰るのでしばらく診察にこられないと言ったら、こちらへ帰って来るまでの分を出しておくので点耳を続けるようと言われました。』

.....
【処方チェックの基本アルゴリズム】

処方薬は耳鼻科疾患のある患者に禁忌、慎重投与となっていることから、患者への処方が不適切であることを見出す。

【処方例のチェック結果】

眼・耳科用リンデロン A 液は禁忌である可能性。